「名前を付けて一時保存」機能で一時保存した HTML ファイルから、作図情報を取り出す方法

本マニュアルでは、地理院地図の「名前を付けて一時保存」機能で一時保存した HTML ファイルから、GeoJSON 形式の作図情報を取り出す方法をご説明します。

～ 目次 ～

1. 平成 28 年 3 月 14 日以前に保存した HTML ファイルの場合

2. 平成 28 年 3 月 14 日以降に保存した HTML ファイルの場合

1. 平成 28 年 3 月 14 日以前に保存した HTML ファイルの場合

① 一時保存した HTML ファイルを適当なエディタで開き、60 行目付近の GSI.ClientMode.sakuzuList の中身（行の最初の「 { 」以降、行末にある最後の「 } 」まで）をコピーします（図 1 参照）。

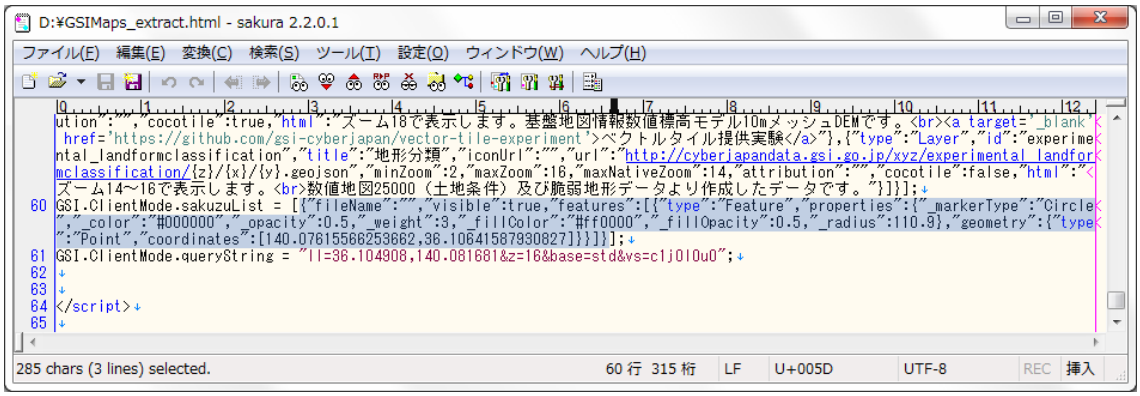

図 1 ： 作図情報の場所

注： 1 行の文字数に制限があるエディタや、LF コードが無効化されるエディタでは、正常に表示されない可能性があります。

② 新たにエディタを開き、コピーしたテキストをペーストします。

③「"fileName":"","visible":true」を「"type": "FeatureCollection"」に書き換えます（図 2 参照）。

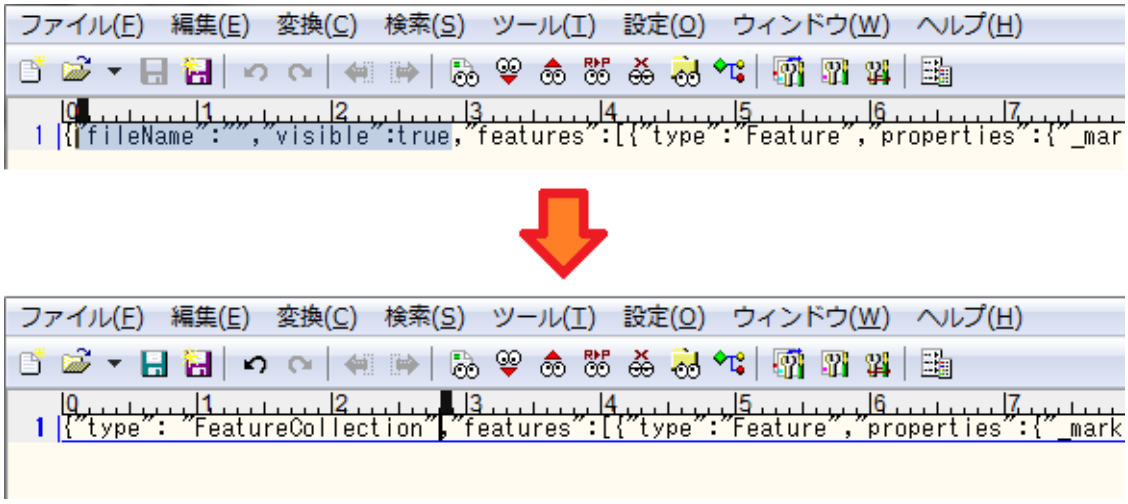

図 2 ： テキスト変更箇所

④ 適当な名前を付けて保存します。拡張子は「.geojson」とします。

⑤ 作図情報を地理院地図上に表示する場合は、地理院地図が表示されているブラウザに GeoJSON ファイルをドラッグ＆ドロップすることで、簡単に表示できます（図 3 参照）。

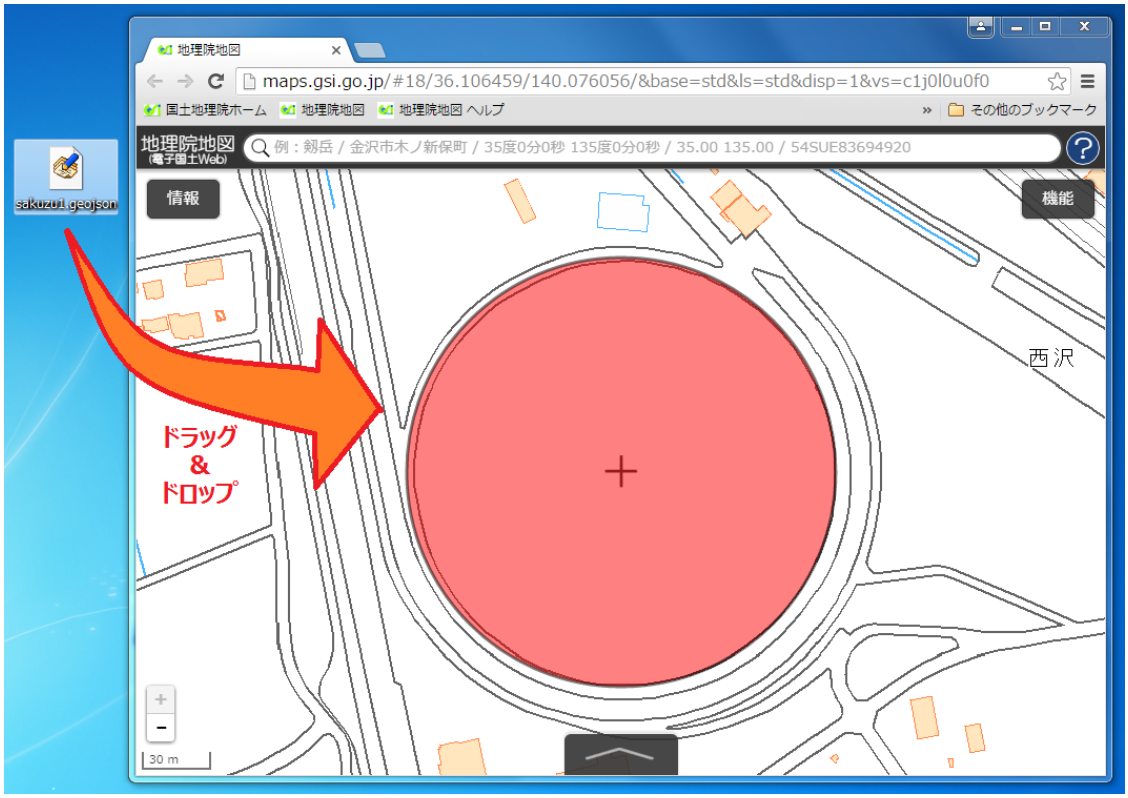

図 3 ：作図情報を地理院地図上に表示

2. 平成 28 年 3 月 14 日以降に保存した HTML ファイルの場合

① 一時保存した HTML ファイルを適当なエディタで開き、32 行目付近の ClientMode.sakuzuList の中身（行の最初の「 { 」以降、行末にある最後の「 } 」まで）をコピーします（図 4 参照）。

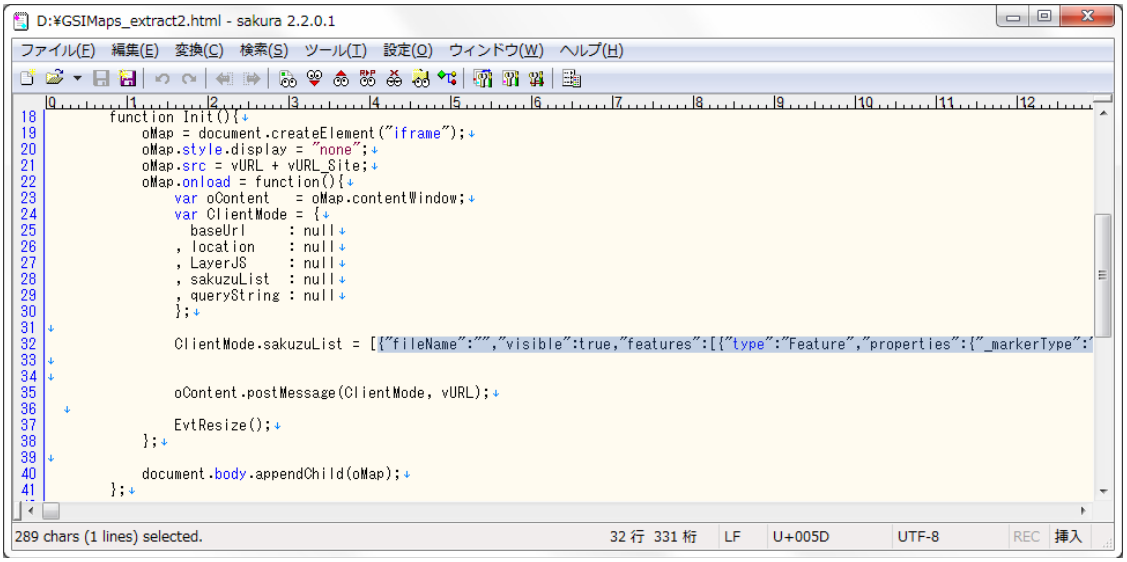

図 4 ： 作図情報の場所

注： LF コードが無効化されるエディタでは、正常に表示されない可能性があります。

② 以降は、「**平成 28 年 3 月 14 日以前に保存した HTML ファイルの場合**」と同様の操作をします。